

Close-up Interview (3月号 表紙の顔)

坂本 かや

SAKAMOTO KAYA

「結婚して環境も変わったし、気持ちの面でも変化がある。それがいい結果に結びついたと思えるような年にしたい」

プロ9年目ながら、今まだ24歳の坂本かやプロ。公式戦ファイナリストの常連で、昨シーズンも15戦して優勝1回、準優勝1回、3位3回、ポイントランキング2位の好成績を収めた。昨年12月、自身のSNS上で結婚したこととオフに手術を受けることを報告してファンを驚かせたが、今号が発行されるころには、“年女”として迎える新シーズンに向けて元気に再始動しているはずだ――。

▲“年女”の新婚プロとして臨む今シーズン、坂本には昇竜のごとき活躍で新時代をけん引していただきたい(2月14日、横浜赤レンガ倉庫周辺の街中にて/カメラ:馬場高志)

「術後の経過は順調です」

——昨年末に結婚、そして ioリーグ参戦後には手術を受けたそうですね。

「はい。どちらも詳しくお話しするつもりはないけど、手術はケガや大病ではないので安心してください。生まれつきちょっと弱いところがあって、それを治してもらったという感じ。手術したら1カ月くらいボウリングはできないと言われていたの、ioリーグから公式戦の開幕まで2カ月空くこの時期になりました」

——術後の経過は？

「順調です。でも、お医者さんに『腹筋は動かしちゃダメ、安静にしているのがいちばん』と言われたので、今はずっと家でゆっくりしています」

——何をして過ごしている？

「料理ですね。結婚して、自分が料理を作る側になったので(笑)、毎朝旦那さんにお弁当作って、夕ご飯を作って待っています。あとはサブスクで昔のドラマを見たり、YouTubeで動画配信を見たりしていますが、ボウリング関係は一切見ないですね。ボウリング場に行かないときはボウリングから離れたい、なるべくオンとオフをはっきりさせたいと思うほうなの

で。それでも、頭のどこかでは無意識にボウリングのことを考えているんですけど」

——投げ始めるのはいつごろになりそうですか？

「あと2週間くらいしたら投げようと思っています(取材日は2月14日)、いきなり全力で投げるのはダメと言われてるので、軽めに流しながら少しずつペースアップして、開幕戦の関西オープンまでにはしっかり仕上げるつもりです」

悔しかった全日本の予選落ち

——毎年コンスタントに好成績を挙げていますが、昨シーズンを振り返っていちばん印象に残っているのは？

「やっぱり大岡産業レディースの優勝ですね。ワッペンを貼らせていただいているスポンサーさんの大会なのに、契約してもらってから予選落ちが続いていたので(苦笑)。社長にもすごく喜んでもらえました」

——反対にいちばん悔しかったのは？

「予選落ちしてしまった全日本(女子プロ)選手権です。日ごとにオイルパターンが変わる大会で、予選はランキング順のボックス(中島瑞葵、石田万音、霜出佳奈と同ボックス)

だったじゃないですか。だから余計に現実を突きつけられたというか、ここで勝ち上がれないのはまだまだだな、と」



▲大岡産業レディース優勝時の坂本。自身のスポンサーの冠大会初制覇に喜びを爆発させた(23年7月30日、ボウルアロー松原店)

——全日本は大半のプロがスコアメイクに苦労していた印象ですが、シーズンを通して、坂本プロ本来のボウリングにピタリとはまるコンディションの大会も少なかったように思います。

「私もそう感じてはいたけど、レーンコンディションは周りの選手の投球スタイルで変化していくので。上位の選手はボールスピードが速い上にコースを絞って投げていて、かつ回転数の多い子も増えてきた。そんななかで、私が得意な曲げ幅を出すボウリングは合わないと思ったので、自分なりに絞るボウリングで対処していました」

——かなりストレスが溜まったのでは？

「それでも合わせていかないと上位には行けないので。お陰でボウリングの引き出しは増えたかも(笑)。ファンの方には『曲げるボウリングが見たい』と、すごく言われますけど」



▲ちゃおちゃおボウリング大会のファイナリスト4名(左から中島、石田、坂本、金子萌夏)中の最年長が当時23歳の坂本だった(23年10月7日、品川プリンスホテルBC)

年下プロの活躍に刺激

——中島プロや石田プロなど、気がつけば坂本プロよりキャリアも年齢も下のプロが台頭してきました。

「そうですね。ちゃおちゃお(ボウリング大会)のテレビ決勝は私だけ20代。自分が『最年長』と言われる日がこんなに早く来るとは思わなかったです(苦笑)。でも、ボウリング界としてはすごくいい傾向だと思うし、若い世代で盛り上げていくことが業界の発展にもつながると思うので。私自身、彼女たちの活躍が刺激にもなっているし、技術だけでなくメンタルの強さも感じるボウリングを見て、勉強にもなっています」

——そんな彼女たちと戦う“年女”の一年の目標は？

「優勝したいと思って優勝できたらそれがいちばんですけど、まだそこまでのアレ(技量)は持ち合わせていないので(苦笑)。もっと強くなりたいとか、引き出しを増やしたいとか、一年が終わったときに自分のなかで収穫があったなと思えるように過ごしていくのが目標です。結婚して環境も変わったし、気持ちの面でもけっこう変化はあるので、最後にそれがいい結果に結びついたと思えるような年にしたいですね」

——弟の就馬プロも昨年は2勝して2年連続シード入り。男女共催大会での姉弟優勝にも期待したいです。

「それはもう、私にとっても

いちばんの夢なので(笑)」

——ところで、最近は若いママさんプロも増えてきていますが、いずれは坂本プロも仲間入り？

「赤ちゃんはほしいし、小さいころからの夢でもあるので前向きには考えていますが、もう少しボウリングを頑張ってからですね。20代のうちにはほしいですけど(笑)。山田(幸)プロは出産されてからも優勝しているし、そういう姿を見ると勇気をもらえるというか、私もいずれは子育てとボウリングを両立して頑張りたいと思います」

取材協力: ジョイパッケジャー株式会社

坂本プロと一緒に投げよう！ 近日開催のチャレンジマッチ

- 3月12日 千葉・北小金ボウル
- 3月16日 大阪・ボウリングスペースhit
- 3月20日 東京・サンスクエアボウル
- 4月6日 東京・永山コバボウル



さかもと・かや/2000年1月17日生まれ、神奈川県出身。156㌢、右投げ。16年プロ入り(49期/ライセンスNo.544)。優勝6回、公認パーフェクト3回。23年度ポイントランキング2位、アベレージ221.02。永山コバボウル所属



▲手術前にはクラブチーム「イグナイト東京」のメンバーとしてioリーグに参戦。「これまでチーム戦の経験がほとんどなかったので、投げていない時間やチームメイトとの食事だったりも込みで、ものすごく楽しかった」という(1月19日、池袋ロサボウル)